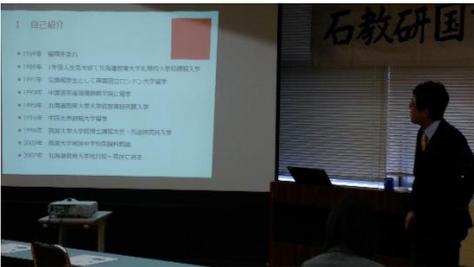


中学校国語科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	主体的・対話的・深い学びへとつなげる授業の在り方	
日時	平成29年11月24日(金)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	大橋 賢一 氏 (北海教育大学旭川校 教授)	
参加者	約20名	
研修会 の 様子		<p>今年度の理論研修会は北海道教育大学旭川校教授の大橋賢一氏をお招きし、国語科における「主体的・対話的・深い学びへとつなげる授業の在り方」を学びました。</p>
		<p>初めは大橋先生の自己紹介から始まりました。先生の中国留学時代のお話や、大学とサモアの協力事業のお話などをうかがい、「国際交流から考える国語教育」の在り方について学びました。「多面的な見方ができること」「言葉は英語だけが全てではない」「日本の底力～母語による高等教育を可能にしている」等の視点から国語科教育についてお話しいただきました。</p>
		<p>その後は漢字を「文字学教材」「語彙教材」「文法教材」という3つの視点から捉え、生徒の学びに生かす授業についてご教授いただきました。例えば「暮」という漢字は「太陽が草の中に沈んでいく様子」を漢字にしたものですが、なぜ「太陽(=日)」が2つあるのか、それを「文字学」として捉えた場合、漢字の意味が深まることが分かりました。</p>
		<p>参加された方からは「漢字のメカニズムや文法につなげる考え方がとても面白く、授業でも使えそうでした」「知的好奇心を大いにくすぐられ、漢字、漢詩、漢文のもっとい可能性について学ぶ機会でした」等、非常に好評をいただきました。大橋先生、お忙しい中ご教授いただき、本当にありがとうございました。</p>